

## 第 2 回プレ学習会報告

日時 2013 年 7 月 18 日 (木) 10:00~12:00

場所 浦和コミュニティーセンター第 15 集会室

テーマ 「学ぼう！日本の食の安全と私たちの健康」

講師 大村 美香氏 (朝日新聞 生活グループ編集委員)

参加人数 118 人



【内容一部紹介】私たちが健康を支えるにあたっての、食の安全についてお伝えします。

### 1. 食品をめぐる制度改変

先の国会で食品表示法が成立。既存の 3 つの表示の分かりにくさを一本化。そこに新たに栄養成分表示も義務化されました (それに対する規定で、業者に対して消費者が申出できるので活用したい)。近年増加の 50 代男性の肥満、20 代女性の痩せなど、日本人の健康と食生活を守るうえで必要と考えられました。規制改革が閣議決定した食品の機能性表示には、科学的根拠については企業の責任だけで「〇〇ゼロ・2 倍・たっぷり」など表示できるため、栄養成分を見なくては判断ができません。規制改革会議は年内中なので動向を注視する必要があります。TPP 参加に向けての交渉が始まりました。食の安全に関わる項目の一つ SPS 協定には、衛生植物検疫において科学的根拠なしに輸入の拒否はできないこと、1 つのリスクを守るためにかける制限は最低限に、という二つの原則があります。また TBT 協定は、食品や動植物検疫以外の、貿易の技術的障害に関して原産国差別の禁止や、知る権利・環境保護を重視します。しかし、並行して行われている日米交渉も、米通商代表部が他国の輸入制限には強い意見を出してくるため、各項目を二国間でどう緩めるかの議論になり兼ねないことが懸念されます。

### 2. 大きな区切りを迎えた B S E 対策

今年 7 月、全自治体も全頭検査から 48 か月超牛のみの検査に切り替え。特定危険部位の除去も徹底されていて、BSE の病気自体の学問的説明は別として、世界の発生状況からみて、リスクはコントロールできていると言える。国内の徹底した措置よりも、輸入措置が揺らぐのではと大きく問題視してきた経緯があります。

### 3. 最大のリスク腸管出血性大腸菌などによる食中毒

いま食の安全を脅かしているのが食中毒です。特に死者を出しているのが腸管出血性大腸菌 (O-111, O-157)。他にサルモネラ、自然毒、ウェルシュ菌、カンピロバクター、ノロウイルスなど。事故以来不可能かと思われたユッケの外食での提供も可能になった技術の進歩もあります。

### 4. 食品の放射性物質汚染

国は東日本 17 都県に検査計画を指示。他の道府県や各自治体、国立医薬品食品衛生研究所が流通品を検査。12 年度は前年より数値は下がっています。福島の内臓検査でも内部被ばく量は減少していますが、流通以外の食形態 (川魚、イノシシ、山菜など) で被ばく量が大きく違う人もいることを理解しなければなりません。

### 5. リスクの捉え方

リスクの大きさ = 「被害の大きさ」 × 「起きる確率」をモノサシにできますが、これは社会的措置として何を優先すべきかの目安に。しかし一般には「怖い (制御できない、自発的でない、未知である)」と感じるものがリスクの大きさになっています。科学的かだけではなく、いかに多様な価値観で社会として対応するかが問われます。市民のリスク理解は主観的ですが、リスクは合理的に達成できる限り低く。優先順位は私たちの中にあります。

## 【質疑応答】

- Q 農産物の産地表示を、県単位ではなく市町村にはできないのか？放射性物質測定値に同じ県内にも違いがある。
- A 高い値が出た場所の近くが皆高いわけではないです。産地表示は国で決まっています。
- Q リスク管理について、例えばT P P協定で決まったことで不安を回避できない場合、最終的には自分の判断にかかっているということですか？
- A 社会の対策としては、施策を決める際に消費者はどう声をあげていくか、個人の対策では消費者としてどう振る舞うのか。リスク管理を、科学的にレベルを上げることは、他にしわ寄せもある。他の分野と比較検討して社会のバランスをとることも不可欠。「放射性物質基準値超過は出荷停止」は社会の、「基準値未満で流通しているものを食べるかどうか」は個人のリスク管理です。
- Q 食品中毒、米国は多いようですが。
- A 統計の取り方が日米で違います。日本は食中毒が確定しているもののみが数字に、米国は病気の原因が追跡しきれていないものがあり、数字は最低限に判明したものです。

## 【アンケートによる感想・意見】

- ・食の分野について広く知ることができた。13
  - ・難しい内容だが勉強になった。9
  - ・わかりやすく有意義な講演で良かった。9
  - ・食の安全について基本的な考え方がわかった。安全の大切さを実感した。6
  - ・基準が変わる際、十分な安全性が考えられているか不安。根拠を明らかにしてほしい。3
  - ・信頼できる情報だけが流れる世の中になってほしい（必要に応じて情報を手に入れたい）。4
- 食品表示法について、とても勉強になった。**
- ・自分の体を守るために、一人ひとりに「気を付けよう」という自覚が必要だと感じた。7
  - ・もっと表示が消費者にとってわかりやすくなれば良いと思った。今日の学習を生かしたい。
  - ・安心安全のために表示とにらめっこで食品・商品を選んでいきます。選びます。6
  - ・自分の健康のために、塩分に気を付けるなど、表示を生かしたいと思う。5
  - ・「健康食品表示」の機能が科学的に立証された成分ではないと、心にとめておきます。3
  - ・今まで難しいと思っていた問題がわかるようになり、これからは向き合えそうだ。6

## T P Pについて

- ・今後のことなので、勉強していききたい。2
- ・難しい。もっと知りたい。2
- ・他人事だと思っていたが身近に感じた。・動向が心配。3
- ・T P Pで、安全なものが分からなくなりそうです。
- ・消費者運動をする者として「TPP はリスクだらけ」という意見をどこか期待してしまった。

## リスク管理について

- ・興味深かったです。もっと学ぼうと思いました。9
- ・社会的リスク管理として、状況により基準を決めていくことは必要だと思う。
- ・安全の判断は、最終的には自分にあり、生きている限り課題だと感じた。6
- ・リスクはいろいろあるが、情報を正しく理解し、できる範囲の実行が大切だと思った。4
- ・リスクを避ける方法を考えよう。できると思う。3

**B S Eについて** ・なんとなくの不安があったが、背景がよくわかった。4

**食中毒について** ・よくわかった。気を付けなければと思った。新発見もあった。7

・食の安全についての、報道機関の役割や責任の話も聞きたかった。

・大村さんの記事を新聞で 読んだことがあります。 【アンケート 61 枚回収/118 人中】